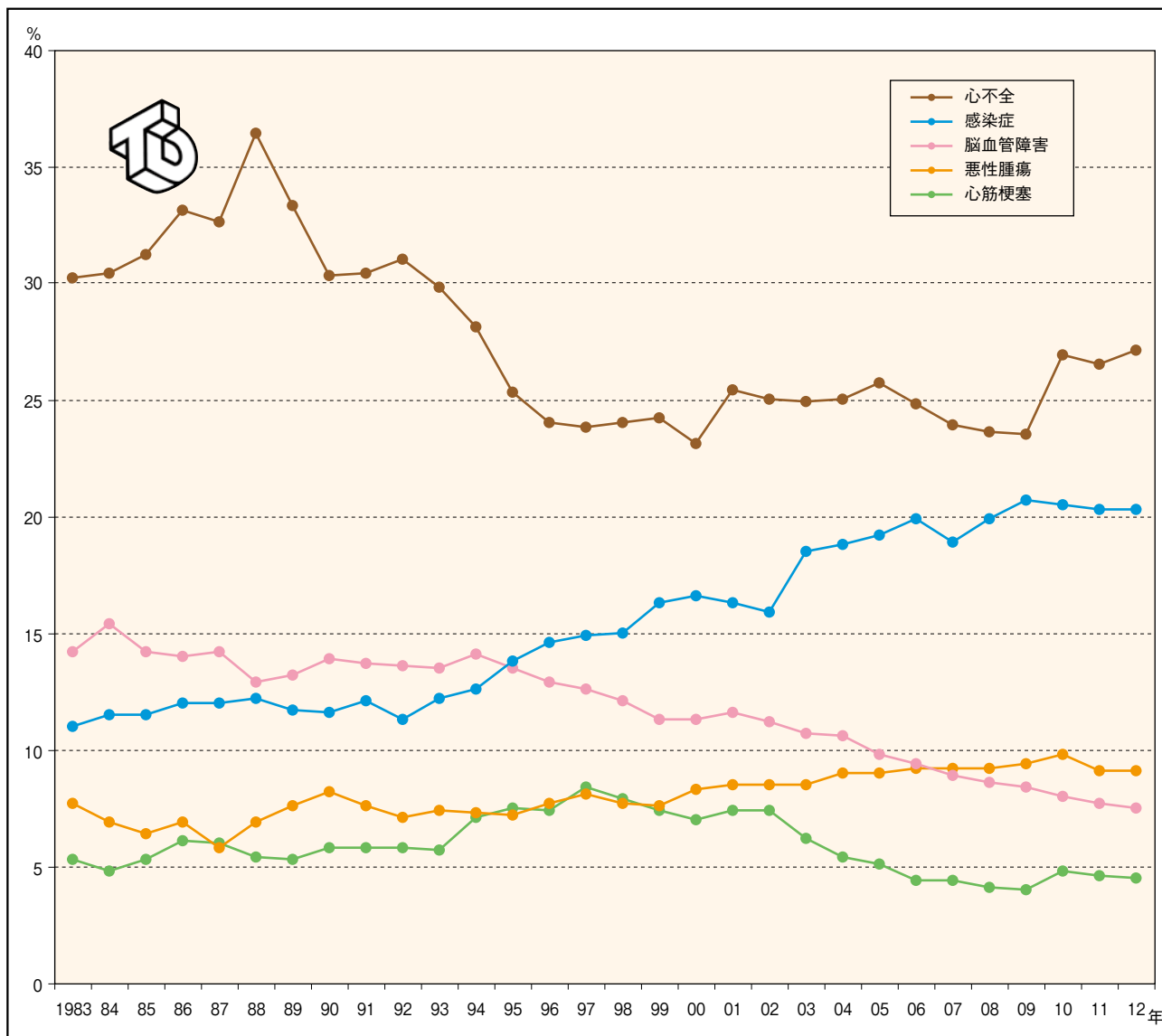


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表21)



患者調査による集計

解説

死亡原因の第一位は心不全であった。変動はあるが、最近増加傾向にあるようにも見える。感染症による死亡は1993年頃から一貫して増加しているが、過去4年間は、約20%でほぼ変化はない。脳血管障害は1994年以降一貫して漸減傾向が継続している。心筋梗塞死亡は1997年の8.4%をピークに最近漸減傾向であったが、2010年に4.7%と微増してから2011年、2012年は0.1%ずつ減少した。悪性腫瘍死亡は前年と変化はみられなかった。

心不全、脳血管障害、心筋梗塞を心血管障害による死亡と考えると、1988年には54.8%であったものが、ほぼ一定のペースで減少し、2009年には36.0%となった。しかし、2010年は39.8%、2011年は38.9%、2012年は39.2%であり、過去3年間はおおよそ39～40%で推移している。